

長崎の林業

小曾根星堂書



企業の森づくり「九電みらいの森」 林内整備の様子

4

目次

●林政だより	平成31年度林政課・森林整備室の予算概要……………	2～3
●特集記事	森林ボランティア 田淵睦夫さん……………	4～5
●林業普及だより	～労働災害防止に向けて～ 実践的リスクアセスメント導入 (林業) 集団指導会 in 上五島……………	6
●地方だより・県北	森林の多面的機能の発揮をめざして……………	7
●地方だより・島原	「林業労働安全研修会」が開催されました！！……………	8
●林業団体情報	東彼林業研究会がハラン苗を株分け移譲……………	9
●センターだより	ツバキ講習会 ～剪定講習及び成果報告会～……………	10
●紹介コーナー	松尾商店……………	11
●～企業の森～	九州電力(株)長崎支社「九電みらいの森」……………	12



2019
No.763

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

平成31年度林政課・森林整備室の予算概要

本県の森林面積は、242千haで県土面積の59%を占めており、スギ・ヒノキの人工林のほとんどが伐期を迎え、資源の充実期を迎えています。

県はこの充実した資源を活用して地域に優良な雇用の場を創出し、持続可能な林業経営を実現していきたいと考えております。そのためには、生産性の高い事業体を育成し、事業量を拡大するとともに、林業専門作業員の所得向上や、労働環境を改善し、更なる民間の参入や作業員の確保を図っていく必要があります。

また、近年多発している豪雨等の災害を未然に防止し、県民の皆様の安全・安心を確保するため、ハード・ソフトの両面から計画的な治山事業の推進に取り組むとともに、発生した災害につきましては、早期の復旧に努めてまいります。



整備された森林

◎林務関係当初予算の概要

本年度の林務関係の一般会計当初予算は、約80億円となります。

主要事業

1. ながさき森林環境保全事業

(予算額：238,417千円)

「環境重視」「県民参加」の視点で、緊急に間伐等を実施する必要がある森林の整備や森林ボランティア等による森林保全活動の支援等を実施します。



ふるさとの森林づくり事業
温泉水を利用した木材の乾燥試験（五島市）



ながさき・なごみの街づくり事業
待合室内の木質化（諫早市）



エコライフフェスタでのカホンづくり

2. ながさき県産材通拡大事業費

(予算額：9,105千円)

県産材の需要拡大、川上から川下までの事業者の連携によるサプライチェーンの構築、製材品の輸出拡大に向けた取組等を行います。

3. 地域と森林見守り推進事業(新規)

(予算額: 3,911 千円)

主伐・再造林の推進体制の構築、しいたけやツバキ油などの特用林産物等の生産体制の構築に対して支援します。

4. 森林環境譲与税事業(新規)

(予算額: 41,000 千円)

「新たな森林管理システム」を推進するため、市町への支援および森林整備の担い手となる林業事業体の更なる確保・育成等を実施します。

5. 森林環境保全整備事業

(予算額: 1,279,461 千円)

公益的機能を持続的に発揮させることができる健全な森林を育てるため、間伐などの森林整備を実施します。また、花粉発生源対策としての主伐・再造林を支援します。

なお、平成31年度から荒廃した人工林を対象とした伐捨間伐及び間伐材の搬出に必要な森林作業道の開設が、ながさき森林環境保全事業から本事業に移行しました。



プロセッサによる造材作業

6. 森林環境保全整備事業(林道公共)

(予算額: 356,108 千円)

森林資源の一体的・効率的な整備を促進するために必要な森林管理道の整備を行います。

7. 治山事業

(予算額: 3,671,449 千円)

梅雨前線や台風による集中豪雨、地震及び火山噴火等を起因とした山地災害から県民の生活を守るための治山施設整備及び森林整備を行います。

また、これまでに設置した治山施設の適正かつ効果的な維持管理を行うことによる施設の長寿命化を図るとともに老朽化対策を行います。



位ノ端地区復旧治山事業

◎林務関係補正予算の概要

林務関係の2月補正(経済対策)予算は、15億円となります。

主要事業

1. 合板・製材生産性強化対策事業

(予算額: 742,311 千円)

木材製品の国際競争力を高め、原木供給の低コスト化等による製材工場等の体質強化を図るため、間伐材の生産等を実施します。

2. 県営林事業

(予算額: 167,007 千円)

県営林において、適正な森林管理及び健全な経営を行うため間伐材の生産及び路網整備を一体的に実施します。

3. 公共事業(造林治山事業)

(予算額: 382,794 千円)

林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため、森林整備等を推進します。

また、豪雨災害等、激甚化する災害に対する山地防災力強化します。

4. 公共事業(ゼロ国庫債務負担)

(予算額: 207,900 千円)

治山事業の前倒し発注による、景気対策を実施します。

(林政課 計画調整班)



国有林の職員を40余年間勤め上げ、トウモロコシの素材をポット造林に応用したネオポットの開発などの実績を残されている田淵睦夫さん。退職してからは長崎県民の森や市民の森にも勤務され、現在は森林ボランティアとして活躍されています。

樹木との出会い

田淵さんは樹木に詳しく、森林ボランティア活動を進めるうえで、樹木の識別では欠かせない存在です。そこで、どうやって樹木を覚えたのかお聞きしてみました。

その答えは、自分の生い立ちにあるということでした。北松浦郡の田平町出身で、(現在は平戸市です。)お父さんが森林組合や林業関係の仕事についていたことやおじさんが炭焼をしていたので、身内から樹木の方言を教わる機会が多かったそうです。その経験を下敷きにサルホーと言えばイスノキ、フシノキはヌルデ、マゴジョノキはホルトノキを指すことなど樹木方言集で確認しながら標準和名を覚えてきたそうです。

国の基は森林にあり

田淵さんは森林の保全が大切だと言われます。その理由は、森林が適切に保全されて初めて農業生産が安定する、農業生産が安定すれば人々の暮らしが豊かになるとの思いです。

この考え方の原点には、田淵さんが育った時代背景も大きく影響しているようです。

氏が育ち盛りの昭和20年代には、山は乱伐により禿山状態でした。なぜなら、戦後の復興を始めたばかりだったからでしょう。山の木は薪炭の原料として乱伐され、荒れ放題だったそうです。そのため、食事に必要な薪の調達さえ、庶民には難しかった時代でした。電気釜で簡単にご飯を炊ける現代人にとって、

当時の苦しい状況を想像することは難しいかもしれませんが。

氏が国有林の職員として奉職した原点がここにあるようです。

中国での緑化に対する思い

田淵さんは中国旅行が大好きで、今まで15回行かれたとのこと。そのうち3回は甘肅州蘭州の黄土高原や陝西省榆林の砂漠の植樹にも参加されました。そんな旅行のなかで、砂漠を緑で覆い飛砂を防止し、黄河や長江の黄色濁りを清水に、豊かで平和な漁場の海へ、黄河から青河に変えたいとの思いがうまれました。

さらに、海の邪魔物であるエチゼンクラゲは、乾燥させると保水力に優れており、ネオポットの苗木でエチゼンクラゲの乾物を利用した造林で砂漠の緑化を進めたいとの興味深い話も聞くことができました。

森林ボランティア活動

田淵さんは、長崎県民の森のインタープリターを始め、森林ボランティア団体の「ながさき楽しみの森づくり会」、「特定非営利活動法人おおむら里山村づくり委員会」などの活動に参加しておられます。

長崎県民の森のインタープリター活動では、恒例のイベント「どんぐり教室」の講師役です。また、インタープリターの仲間のために、園内の植物観察も指導しておられます。

ながさき楽しみの森づくり会では、長崎市民の森を活動の拠点として、野鳥の森の整備にも参加されています。野鳥の森には多くのメジロやヒヨドリがやってくるので、ツバキ花木の整理を始め、ヒサカキ、ネズミモチ、ハゼノキ及びシヤシャンポなど野鳥の餌となる樹木の結実促進や育成、林内歩道の整備、ベンチの設置など子供の安心安全を考慮して楽しみの森づくりを実施しているそうです。さら

に平成30年1月29日に開催された外務省日本国際センター記念植樹事業、日蒙(モンゴル)植樹イベントでは、イロハモミジやイチヨウの植え付けにも協力されました。

おおむら里山村づくり委員会では、草木染、しいたけ栽培や植樹指導などにも協力されています。また、平成30年1月26日に開催された日中植樹イベントでは、孔子にちなむカイノキを選定したり、平成31年1月29日に開催された日印(インド)による植樹イベントなどでは、カワヅサクラの植樹に協力するなど国際親善の推進にも一肌脱がれました。



田淵さんの指導で行われた植樹活動



森林ボランティア団体交流会の様子

取材を終えて

田淵さんは既に80代に達しておられますが、ご本人の精力的な活動はとどまるところを知りません。今後一層のご活躍を期待しております。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

～労働災害防止に向けて～ 実践的リスクアセスメント導入(林業)集団指導会 in 上五島

本県の林業労働災害については、平成29年度に5件、今年度は5件発生しており、うち五島において2年で4件の労働災害が発生しています。そのため、他地域同様に災害の芽をつぶしていくことが大変重要な課題となっています。そこで1月29日(火)に林業・木材製造業労働災害防止協会長崎県支部(以下、「林災防」)の主催による「実践的リスクアセスメント導入(林業)集団指導会」が五島森林組合上五島支所を対象に開催され、役職員・フォレストワーカーら17名が参加されました。

研修の前半では、安全管理士(九州・沖縄地区担当)の石川幹靖氏から林業での事故の特徴として、自己流の作業方法をする人が多く、それが結果的に労働災害に繋がっているという講話があり、作業の基本をしっかり守ることの大切さを再認識しました。



安全管理士による労働災害の講話

後半はグループに分かれて、事例に基づいたリスクアセスメントの演習を行いました。演習で、作業中の危険要因やその低減対策について話し合う中で、参加者がこれまで体験してきたヒヤリハット事例なども話題に上がり、参加者の間で積極的な意見交換ができた。

また、ベテランと初心者がいっしょに討議していく中で、ベテランが考える危険を初心者が、初心者が感じた危険をベテランが、それぞれ共有することができました。個人で作業する場面も多い現場ですが、このように、作業中の経験をチームで共有することは、とても大切です。



リスクアセスメントの演習風景

林業の現場は、傾斜がきついなどの厳しい条件は変わりませんが、基本に忠実な作業を心がけ、危険に対する意識を変えていくことで安全性を高めていくことは可能です。研修を受けたことで安心せず、今回の研修を実際の現場で活かし、災害ゼロをめざしてほしいです。



(五島振興局 林務課)

森林の多面的機能の発揮をめざして



御厨町の大岳山から見える星鹿半島や伊万里湾の景色

御厨町の大岳山は、標高 288.8 m と標高 258.0 m の山頂が連なっている山で、その周辺はスギ・ヒノキの人工林や広葉樹林が広がり、山頂からは星鹿半島をはじめ風光明媚な伊万里湾の景色が望める穴場スポットとなっています。

松浦市では、森林の持つ多面的機能が十分に発揮できるよう、国、県及び松浦市森林組合など関係機関と連携しながら施策を推進するため、基本理念及び基本方針を明確化し、森林整備の促進と森林資源の活用を目的とした「松浦市森づくり条例」を制定し、基金による事業の推進が行なわれています。

その一環として、平成 27 年度からこの大岳山山頂一帯を干害防備保安林にも指定された公益性の高い森林として位置づけ、整備に取り組みました。



平成 27 年から干害防備保安林に指定された森林

自然の状態を保ちながら

今回の整備については、干害防備保安林としての機能を損なわないよう、人工物の設置等は極力行わず、森林として自然な状態を保つことを大前提としていますが、人工林も存在することから間伐等の森林整備を目的とした森林作業道も必要であり、森林整備に支障のない範囲内で一部を歩道とするなど環境面へも配慮し、植栽も行い、保健機能も併せもつ森林への誘導も目指されています。



厳かな森林を抜けると

山頂へと向かう途中には、厳かな雰囲気にも包まれた社叢もひろがり、森林浴にも最適です。登りきると、絶景が広がり、ほっと一息つける丸太の椅子も設置されています。皆さんも、是非一度おでかけください。

(県北振興局林業課)

「林業労働安全研修会」が開催されました!! ー島原ー



2月27・28日に、林業における労働安全の向上にむけて、「林業労働安全研修会」が開催され、島原管内の林業現場技術者17名が参加されました。講師には佐賀県林業課の山口講師にお越しいただきました。

1日目は、重機を用いた作業道作設時の作業技術及び安全ポイントについて講義が行われました。土の転圧方法や表層土を用いた早期緑化、根株の処理の仕方などについて理解を深めました。



- 重機を用いた作業の様子 -

2日目は、伐木・造材時における留意点として、かかり木処理の方法についての講義が行われました。かかり木処理時の災害は林業労働災害の中で最も多いため、安全で確実に処理する必要があります。その方法として、フェリングレバーを使った安全なかかり木

処理のポイントの説明がありました。説明後は、若手技術者が学んだことを活かしながら、実際に作業を行い、指導を受けました。



- かかり木の処理の様子 -

今回の研修では、実際の作業を見ながら講義を受けることで、現場でのよりよい判断に役立つと考えられます。参加した現場技術者の方々も研修内容について、「新しい学びがあった」「日頃できない良い経験ができた」などの意見があり、今回の研修を機会にさらに、今後の安全向上に繋がるものと期待します。

(島原振興局 林務課)

林業団体情報

県外被災地復旧や県内離島山村振興の一助になれば・・・
東彼林業研究会がハラン苗を株分け移譲

熱心な県のハラン苗木出荷要請

対馬振興局林業課の普及班から、対馬市上対馬町舟志集落の森林所有者有志がハラン栽培に取り組んでみたいと申し出があったと相談を受けたのは平成30年の秋頃でした。

東彼林業研究会は切り葉の出荷・販売はしていますが苗の出荷は半ば門外不出としているところがありました。

しかし、長崎県の熱心な要請があったことから役員会を招集し協議した結果、自分たちと同じ過疎化が進んでいる山村集落の方々の意欲に答えようではないかということでハランの苗木出荷に応じることになりました。

東彼林研会長が現地調査

対馬振興局林業課の招聘に応じて、東彼林業研究会の楠本和義会長が対馬市上対馬町舟志のハラン苗の移植予定地の現地調査に飛び立ったのは10月の初めでした。



現地では、移植したハランのイノシシ・シカ被害が懸念されましたが舟志集落の古藤さんたちの熱心さに打たれ、波佐見町へ戻り次第ハラン苗木の出荷準備に取り掛かることにしました。

そして2月16日、東彼林業研究会の会員でハランの掘り取り作業を行い、会員の方の車に満載した3,250本のハラン苗木は博多港からフェリーで対馬市上対馬町舟志へ渡りました。

島根県の被災地からの株分け移譲依頼

平成31年3月初旬、島根県江津市桜江町の「今田報徳生産森林組合」から、長崎県県央振興局林業課へ東彼林業研究会のハラン苗の株分け移譲について相談がありました。今田報徳生産森林組合では15haの森林内の一部でハラン栽培を行っていたものの、水害や台風、雪害などによりハラン栽培地が全滅状態になり、以前に現地研修した東彼林業研究会のハランの苗木を株分けしていただきたいというものでした。役員会で協議し、これまで2回現地研修に来ていただいたこと、山村地域で奮闘している現状を考慮して株分けに応じることになり、3月27日に会員3人で500本の苗の掘り取り作業を行いました。

**7時間半かけて苗受取りに現地へ来訪**

東彼林業研究会の会長の楠本さんから苗を受け取った生産森林組合の湯浅理事さんは、ハラン苗の管理についてぜひ伺いたいと熱心に質問をされました。肥料の散布の時期・量・種類のほか、適地の土壌、販売の方法など多岐にわたりました。これに対し、東彼林業研究会の楠本さんは「これから同じハラン苗を栽培する兄弟分ですね」と応じ、丁寧に詳しく植え付けから管理、販売まで詳しく伝授しました。

ハラン栽培は、農薬を一切使用しないため病気の発生や森林内の照度管理など一朝一夕にできるものではないそうですが、励ましを受け帰途に着かれました。

(長崎県林業研究グループ連絡協議会)

センターだより

ツバキ講習会 ～剪定講習及び成果報告会～

はじめに

これまで農林技術開発センターでは、いろいろな要望にこたえる形で講習会を開催してきました。そのうち、昨年の12月に新上五島町で上五島ヤブ椿会などを対象に開催したツバキの講習会について紹介します。

講習会

今回の講習は上五島ヤブ椿会が椿実の収穫量の増加を目的として開催したもので、町民に広報を行い12月20日に似首の公民館で行われました。



当日は15名以上が参加しました。座学では「ツバキの自家及び他家受粉における種子形成」及び「ツバキの冬季の剪定が結実に及ぼす影響」について説明を行いました。

剪定と結実率の関係は、センター内にある挿し木で増やした4本の玉之浦のうち2本を剪定2本を未剪定とし、花蕾が付いた全ての枝924本について結実を比べてみました。今回の結果を統計処理した結果、剪定の有無により結実率に差がみられました(表-1)。

表-1.剪定別の結実率

項目	結実数	落果数	総数	結実率
剪定無	17	555	572	3.0%
剪定有	33	319	352	9.4%

$\chi^2=17.454$

p-value < 0.001

しかし、結実した種子の大きさや油重量については剪定の有無で有意差は見られませんでした(表-2)。

表-2. 剪定の有無と果実1個当たり種子の大きさ等と油重量

項目	剪定無		剪定有		p.value
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
室数(室)	1.59	0.87	1.61	0.75	0.878
種子粒数(粒)	2.24	2.25	2.06	1.71	0.807
種子体積(cm ³)	2.51	2.40	2.34	1.65	0.823
種子重量(g)	1.57	1.81	1.55	1.36	0.993
油重量(g)	0.48	0.76	0.49	0.50	0.950

これらの座学の後には近くの現地で剪定の実技の講習会を行いました。



現地講習会では、ツバキ全般について様々な質問があり、肥料のやり方、下刈りの方法、ヤドリギの対処方法などについて、育成マニュアルを使って説明を行いました。また、剪定の現地では、どの枝を剪定すればよいか等の質問について具体的に実演を交えながら説明しました。

今後も技術普及のためこのような講習会を各地域で開催して欲しいという要望もあったのでセンターとしてもできる限り対応したいと考えています。

(農林技術開発センター)

紹介コーナー 松尾商店



竹細工・荒物・
家庭用品の店
松尾商店

〒 857-1165
佐世保市大和町 1140
番地
電話：0956-31-5263



佐世保市にある松尾商店は竹製品・荒物・家庭用品の店として古くから佐世保市民に慕われているお店です。

店内には様々な竹製品が並べられおり、中には長崎県内や佐世保の竹細工職人が手掛けたものもあります。近年は海外産の竹製品が百円ショップ等で非常に安価で手に入りますが、やはり価格に応じた品質となっているので、長く使うことには不向きとなっています。もっと竹細工職人が作る品質の良い製品を手にとってもらいたいと、店主の松尾さんが全国各地の竹細工職人製の製品を寄せ集めて販売されています。職人の高齢化や廃業等により竹製品の入荷も減って来ていますが、自治体で竹製品の製品化や職人の育成を行っている所もあるようで、少しずつ効果が出始めています。

職人の作った竹製品、是非とも一度使ってみて、その良さを確かめてみてはいかがでしょうか。

伊万里木材市況

【ヒノキ】

平成31年3月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	16,800	多い	多い	普通
	16~18	小曲り	14,800	多い	多い	普通
	20~22	直	16,800	多い	多い	普通
	20~22	小曲り	14,500	多い	多い	普通

【スギ】

平成31年3月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,500	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,500	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

～企業の森～ 九州電力(株)長崎支社「九電みらいの森」



九州電力(株)長崎支社 「九電みらいの森」 (長崎県島原市南千本木町)

九州電力(株)長崎支社では、雲仙・普賢岳の噴火災害で焼失した森林を再生しようと平成13年度より10年間にわたり島原市南千本木町の垂木台地と中尾川治山ダム群内において植樹活動を実施してきました。これまでに12,000名を超えるボランティアの方々との協働により約11万本にわたる植樹を行い、雲仙・普賢岳の森は豊かな自然が取り戻されつつあります。

平成22年10月には「企業の森」として中尾川治山ダム群内に植栽した苗木の保育活動を引き続き行い、この地を「九電みらいの森」と名付けて県と協定を結びました。

こうしたボランティア活動は植樹から保育・育林へと形を変え、長崎の未来の森を創造しています。

「九電みらいの森」 整備活動ボランティア

平成31年3月2日(土)、県内で企業の森として活動している九州電力(株)長崎支社の活動地である「九電みらいの森」(島原市南千本木町)にて、こらぼらQでん「九電みらいの森」整備活動ボランティアが行われ、県内の森林ボランティア団体と協働で整備活動を行いました。九州電力(株)社員24名、森林ボランティア30名、長崎県森林ボランティア支援センタースタッフ5名の計59名での作業となりました。

林内整備作業では、手鎌や手のこ、剪定ばさみを使用し、生い茂る笹の除伐や樹木に絡まるツル切りを協働で行いました。作業後は林内に明るく光が差し込み、子どもたちの笑い声と参加者の清々しい笑顔が「九電みらいの森」に広がっていました。

(NPO 法人地域循環研究所)



九電みらいの森と島原の景色

長崎の林業 4月号 第763号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp